第１－２号様式

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：学校法人　伊勢学園

研修カリキュラム（要綱別紙１）		実施計画				
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		講　師	実施内容	
1　職務の理解　６時間		1　職務の理解	時間数		1　職務の理解	
	(1) 多様なサービスの理解		(1) 介護とは、介護サービスの仕事とは	３ｈ	河内由佳	(1) ・介護保険サービス　・介護保険外サービス
	(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 介護の仕事とキャリアシステム	３ｈ	河内由佳	(2) 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容・実際のサービス提供現場の具体定イメージ
2　介護における尊厳の保持・自立支援　９時間		2　介護における尊厳の保持・自立支援	時間数		2　介護における尊厳の保持・自立支援	
	(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 人権と尊厳の保持、ＱＯＬの考え方、ノーマライゼーション、虐待防止・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要	６ｈ	河内由佳	(1) ・個人としての尊重・アドボガシー・介護分野におけるICF・QOLの考え方・生活の質・ノーマライゼーションの考え方・身体拘束禁止・高齢者虐待防止法・個人情報保護法
	(2) 自立に向けた介護		(2) 自立支援、介護予防	３ｈ	河内由佳	(2) ・残存能力の活用・動機の欲求・意欲を高める支援・個別性／個別ケア・介護予防の考え方
3　介護の基本　６時間		3　介護の基本	時間数		3　介護の基本	
	(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 介護環境の特徴の理解、介護の専門性、介護にかかわる職種	２ｈ	河内由佳	(1) ・訪問介護と施設介護サービスの違い・重度化防止・遅延化の視点・異なる専門性を持つ他職種の理解
	(2) 介護職の職業倫理		(2) 職業倫理	１ｈ	河内由佳	(2) 専門職の倫理の意義・介護の倫理・プライバシーの保護、尊重
	(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 介護労働における安全の確保、事故予防、安全対策、感染対策	２ｈ	河内由佳	(3) 事故に結びつく要因を探り対応していく技術・リスクマネジメント・感染の原因と経路
	(4) 介護職の安全		(4) 介護職員の心と体の健康管理	１ｈ	河内由佳	(4) 介護職の健康管理が介護の質に影響・ストレスマネジメント・腰痛の予防に関する知識

第１－２号様式

4　介護･福祉サービスの理解と医療との連携　９時間	
	(1) 介護保険制度
	(2) 障害者総合支援制度及びその他の制度
	(3) 医療との連携とリハビリテーション
5　介護におけるコミュニケーション技術　６時間	
	(1) 介護におけるコミュニケーション
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション
6　老化の理解　６時間	
	(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常
	(2) 高齢者と健康
7　認知症の理解　６時間	
	(1) 認知症を取り巻く状況
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理
	(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
	(4) 家族への支援

4　介護･福祉サービスの理解と医療との連携		時間数	
(1)	介護保険制度創設の背景と目的 介護保険制度の動向・しくみ 介護サービスの分類と種類 主な介護サービスの内容とサービス事業者・施設 保険給付以外の事業	４ｈ	山路克文
(2)	障害者自立支援制度の背景・基本的な構造・しくみと運営の現状 生活保護制度、成年後見制度、日常生活自立支援事業	４ｈ	山路克文
(3)	介護における医療と福祉の連携 介護職と医行為、リハビリテーション	１ｈ	片山昇
5　介護におけるコミュニケーション技術		時間数	
(1)	介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 コミュニケーションの技法 道具を用いたコミュニケーション 利用者・家族とのコミュニケーション	３ｈ	河内由佳
(2)	記録による情報の共有化 介護サービスにおける報告、連絡、相談 コミュニケーションをうながす環境	３ｈ	河内由佳
6　老化の理解		時間数	
(1)	老化に伴う心身の変化・日常生活	３ｈ	片山昇
(2)	高齢者に多い病気と生活上の留意点	３ｈ	片山昇
7　認知症の理解		時間数	
(1)	認知症ケアの理念	１ｈ	片山昇
(2)	認知症の概念、認知症による障害 健康管理	２ｈ	片山昇
(3)	中核症状、周辺症状 認知症の利用者への対応	２ｈ	片山昇
(4)	家族への支援	１ｈ	片山昇

4　介護･福祉サービスの理解と医療との連携	
(1)	ケアマネジメント・予防重視型システムへの転換・地域包括支援センターの設置・地域包括ケアシステムの推進・保険制度としての基本的仕組み・介護給付と種類・要介護認定の手順・財政負担・指定介護サービス事業者の指定
(2)	障害の理念・ＩＣＦ・介護給付、訓練等給付の申請から支給決定まで・個人情報保護法
(3)	医行為と介護・訪問介護・リハビリテーションの理念
5　介護におけるコミュニケーション技術	
(1)	相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮･傾聴･共感の応答･言語的、非言語的コミュニケーションの特徴･利用者の思いを把握する･意欲低下の要因を考える･利用者の感情に共感する･視力、聴力の障害、失語症、構音障害、認知症に応じたコミュニケーション
(2)	介護における記録の意義、目的、利用者の状況を踏まえた観察と記録・介護に関する記録の種類・報告、連絡、相談の留意点・会議・情報共有の場
6　老化の理解	
(1)	防衛反応の変化･喪失体験･身体機能の変化と日常生活への影響･咀嚼機能の低下･筋、骨、関節の変化
(2)	骨折･筋力の低下と動き、姿勢の変化･関節痛･循環器障害･老年期うつ病症状･誤嚥性肺炎
7　認知症の理解	
(1)	パーキンソンセンタードケア･認知症ケアの視点
(2)	認知症の定義･物忘れとの違い･せん妄の症状･健康管理･治療･薬物療法･認知症に使用される薬
(3)	認知症の中核症状･認知症の行動、心理状態･不適切なケア･本人の気持ちを推察する･プライドを傷つける
(4)	認知症の受容過程での援助･介護負担の軽減

第１－２号様式

8 障がいの理解 ３時間		8 障がいの理解	時間数		8 障害の理解
	(1)障害の基礎的理解	(1) 障害の概念、ＩＣＦの考え方 障害者福祉の基本理念	0.5h	片山昇	(1) ICFの分類と医学的分類・ICFの考え方・ノーマライゼーションの概念
	(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	(2) 身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害	２ｈ	片山昇	(2) 視覚障害・聴覚、平衡障害・音声、言語、咀嚼障害・肢体不自由・内部障害・知的障害・統合失語症、気分・依存症などの精神疾患・高次脳機能障害
	(3)家族の心理、かかわり支援の理解	(3) 家族の心理、家族への支援	0.5h	片山昇	(3) 障害の理解、受容支援・介護負担の軽減
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ７５時間		9 こころとからだのしくみと生活支援技術			9 こころとからだのしくみと生活支援技術
ア 基本知識の学習 10～13時間		ア 基本知識の学習	時間数		ア 基本知識の学習
	(1)介護の基本的な考え方	(1) 理論と法的根拠に基づく介護	３ｈ	河内由佳	(1) ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除
	(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	(2) 人の記憶の構造、意欲の理解と支援	３ｈ	河内由佳	(2) 学習と記憶・感情と意欲の基礎知識・自己概念と生きがい・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因・こころの持ち方が行動に与える影響
	(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	(3) 人体の構造や機能の理解、行動が起こる理由	６ｈ	河内由佳	(3) 人体の各部の名称と動き・骨・関節・筋に関する基礎知識 中枢神経系と体性神経・自律神経と内部機関に関する基礎知識・こころとからだを一体的にとらえる・利用者の様子の普段との違いに気づく視点
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間		イ 生活支援技術の講義・演習	時間数		イ 生活支援技術の講義・演習
	(4)生活と家事	(4) 家事と生活の理解 家事援助に関する基礎的知識と生活支援	６ｈ	河内由佳	(4) 生活歴・自立支援・予防的な対応・主体性、能動性を引き出す・多様な生活習慣・価値観
	(5)快適な居住環境整備と介護	(5) 快適な居住環境に関する基礎知識 高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法	３ｈ	古田晃大	(5) 家庭内に多い事故・バリアフリー・住宅改修・福祉用具貸与
	(6)整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(6) 整容に関する基礎知識・支援技術	３ｈ	古田晃大	(6) 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱・身支度・整容行動・洗面の意義、効果 衣服の着脱、整容等は演習を行う
	(7)移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(7) 移動・移乗に関する基礎知識 さまざまな移乗・移動に関する用具とその活用方法 介護職員にとっての負担の少ない移動・移乗の支援方法 移動と社会参加の留意点と支援	９ｈ	古田晃大	(7) 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法・利用者の自然な動きの活用・残存能力の活用、自立支援・重心、重力の動きの理解・ボディメカニクスの基本原理・移乗助の具体的な方法・移動介助・褥瘡予防車椅子の移乗、移動の介助等は演習を行う
	(8)食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	(8) 食事に関する基礎知識 食事環境の整備・食事に関連した用具活用方法	９ｈ	田中可奈子	(8) 食事をする意味・食事のケアに対する介護者の意義・脱水の弊害・食事と姿勢・咀嚼嚥下のメカニズム・空腹感・口腔ケアの定義・誤嚥性肺炎の予防 食事介助、口腔ケア等は演習を行う

第１－２号様式

	(9)入浴、生活保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(9)	入浴、清潔保持に関する基礎知識 さまざまな入浴用具と整容用具の活用 楽しい入浴を阻害する心と体の要因	９ｈ	古田晃大	(9) 羞恥心や遠慮への配慮・体調の確認・全身清拭・目、鼻腔、耳、爪の清潔方法・陰部清浄・足浴、手浴、洗髪 手浴、足浴、洗髪等は演習を行う
	(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(10)	排泄に関する基礎知識 さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法	６ｈ	古田晃大	(10) 排泄とは・身体面での意味・心理面での意味・社会的な意味・プライド、羞恥心・プライバシーの確保・おむつの使用 おむつの使用については演習を行う
	(11)睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		(11)	睡眠に関する基礎知識 さまざまな睡眠環境と用具の活用方法	３ｈ	古田晃大	(11) 安眠のための介護の工夫・環境の整備・安楽な姿勢 安楽な姿勢、用具の使い方等は演習を行う
	(12)死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護		(12)	終末期に関する基礎知識 「死」に向き合うこころの理解 苦痛の少ない死への支援	３ｈ	古田晃大	(12) 終末期ケアとは・高齢者の死に至る過程・臨終が近づいた時の兆候と介護・介護従事者の基本的態度・他職種間の情報共有の必要性
ウ　生活支援技術演習　10～12時間		ウ　生活支援技術演習			時間数		ウ　生活支援技術演習
	(13)介護課程の基礎的理解		(13)	介護課程の展開	３ｈ	古田晃大	(13) 介護過程の目的、意義、展開・介護過程とチームアプローチ チューター、ロールプレイを含む演習を行う
	(14)総合生活支援技術演習		(14)	事例による展開【事例１．２．３】	９ｈ	古田晃大	(14) 事例の提示（高齢分野、障害分野） チューター、ロールプレイを含む演習を行う
10　振り返り　４時間		10　振り返り			時間数		10　振り返り
	(1)振り返り		(1)	振り返り	１ｈ	古田晃大	(1) 研修を通して学んだこと・今後継続して学ぶべきこと
	(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修		(2)	具体的にイメージできるよう事業所における実習	24ｈ	実習指導者	(2) 介護実習3日　在宅サービス提供現場見学1日
追加カリキュラム							
計　（１３０時間）		計　（１５１時間）					